

令和7年度 学校評価に係る学校関係者による評価について

本校は大田区の東部に位置する羽田と東糎谷の2つの地域を校区に抱え、通常学級7学級と特別支援学級2学級の生徒212名が通学している。どちらの地域も町会、自治会のまとまりが強く、生徒は地域行事への参加や協力を通して、郷土愛を深く自尊感情を高めている。学校経営の基本方針は「豊かな心と主体性を育む教育の推進」「学力向上・体力向上のための取組の推進」「地域と共に子どもを育てる教育の推進」の三本柱であり、外部の人材を積極的に活用し、基礎学力の向上や体力運動能力の向上に向けての取組を推進している。学習面や生活面の課題も多いが、校区の小学校と連携し、改善に向けての努力をしている。特別支援学級は持久走と和楽器の演奏に力を入れ、生徒を積極的に校外に出すことにより、自信をつけさせている。校長の掲げるスローガン「一人一人が自分の夢を実現させるために日々努力し続けていける学校」のもと、教職員、保護者、地域が連携し、生徒の「豊かな心」「あきらめずに努力する姿勢」「他と協調し最善をつくす実践力」を伸ばす取組を推進している。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄						
								評価	コメント					
生予個 き測別 る困目 力難標 をな1 育未成 来し社 会を創 造的に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		A 保護者アンケートで「将来のために必要な力を育てている」と回答した保護者の割合 B 生徒アンケートで「どのような生徒を育てたいか知っている」と回答した生徒の割合 C 「ICTの活用状況に係る調査」において、「できる+まあまあできる」と回答した生徒の割合	4: A 80%以上 B 70%以上 C		A						
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: A 60%以上 B 50%以上 C								
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。											
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。											
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		3: A 60%以上 B 50%以上 C 60%以上						
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。											
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。											
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。											
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		2: A 40%以上 B 30%以上 C 50%以上						
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。											
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。											
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。											
		④学級・学年・学校など生徒自らが所属する集団の課題を主体的に検討し、より望ましい集団を創造する態度の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		1: A 40%未満 B 30%未満						
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。											
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。											
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。											
お世個 お界別 たと目 をつ標 担な2 うが人 材国際 育都 成市 します	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		A 保護者アンケートで「ティームティーチング、少人数指導、補習教室などを実施し、生徒一人ひとりの学力を伸ばしようとしていた」と回答した保護者の割合 B 生徒アンケートで「ティームティーチング、少人数指導、補習教室などの取り組みは、生徒の学力を伸ばすために役にたっている」と回答した生徒の割合	4: A 80%以上 B 80%以上		A						
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: A 60%以上 B 60%以上								
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。											
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。											
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		2: A 40%以上 B 40%以上						
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。											
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。											
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。											
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		1: A 40%未満 B 40%						
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。											
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。											
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。											
		④地域社会の特徴や課題を理解し、地域の一員として誇りをもち、役割を果たそうとする態度の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		1: A 40%未満 B 40%						
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。											
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。											
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。											
た一個 め人別 のひ目 基と標 礎り3 とが な個性 力と能 育力成 をし発 揮する	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		A 保護者アンケートで「元気に登校し、楽しい学校生活を送っていた」と回答した保護者の割合 B 生徒アンケートで「先生は健康な生活を送るための指導をしている」と回答した生徒の割合	4: A 90%以上 B 80%以上		A						
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。											
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。											
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。											
		②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		3: A 70%以上 B 60%以上						
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。											
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。											
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。											
		③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		2: A 50%以上 B 40%以上						
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。											
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。											
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。											
		④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		1: A 40%未満 B 40%未満						
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。											
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。											
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。											

学 校 別 力 ・ 標 教 師 力 を 向 上 さ せ ま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	A 保護者アンケートで「わかりやすい授業を実施するために、様々な工夫をしていた」と回答した保護者の割合 B 生徒アンケートで「授業をわかりやすくするために、様々な工夫をしている」と回答した生徒の割合	4: A 80%以上 B 90%以上			A	
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		3: A 60%以上 B 70%以上				
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。		2: A 40%以上 B 50%以上				
					1: A 40%未満 B 50%未満				
た 自 個 め 分 別 の 目 標 5 を い き 援 い き と 生 き る	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	A 保護者アンケートで「いじめや不登校の課題に、きちんと対応していた」と回答した保護者の割合 B 不登校生徒の割合	4: A 80%以上 B 1%低下			A	
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。		3: A 60%以上 B 0.5%以上 低下				
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		2: A 40%以上 B 昨年度と同程度				
					1: 40%未満 B 0.5%以上 上昇				
安 柔 個 心 軟 別 な で 目 教 創 標 育 造 6 環 的 境 な を 学 習 く 空 間 と 安 全 ・	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	A 保護者アンケートで「開かれた学校づくりをしていた」と回答した保護者の割合 B 生徒アンケートで「ボランティアで地域の行事などに意欲的に参加している」と回答した保護者の割合	4: A 90%以上 B 70%以上			A	
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		3: A 70%以上 B 50%以上				
					2: A 50%以上 B 30%				
					1: A 50%未満 B 30%未満				
学 地 学 校 域 校 別 を コ ・ 目 つ ミ 家 標 ク ユ 庭 7 リ ニ ・ ま テ 地 す イ 域 の 核 連 と 携 し ・ て 協 働 に よ る	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	A 保護者アンケートで「学校は、地域の力(保護者以外)を子供たちの教育活動に活かしていた」と回答した保護者の割合 B 生徒アンケートで「羽田中は、他の学校にはない特徴をもった自慢できる学校だと思う」と回答した生徒の割合	4: A 70%以上 B 70%以上			A	
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		3: A 50%以上 B 50%以上				
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		2: A 30%以上 B 30%以上				
					1: A 30%未満 B 30%未満				

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A: 自己評価は適切である B: 自己評価はおおむね適切である C: 自己評価は適切ではない D: 評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載